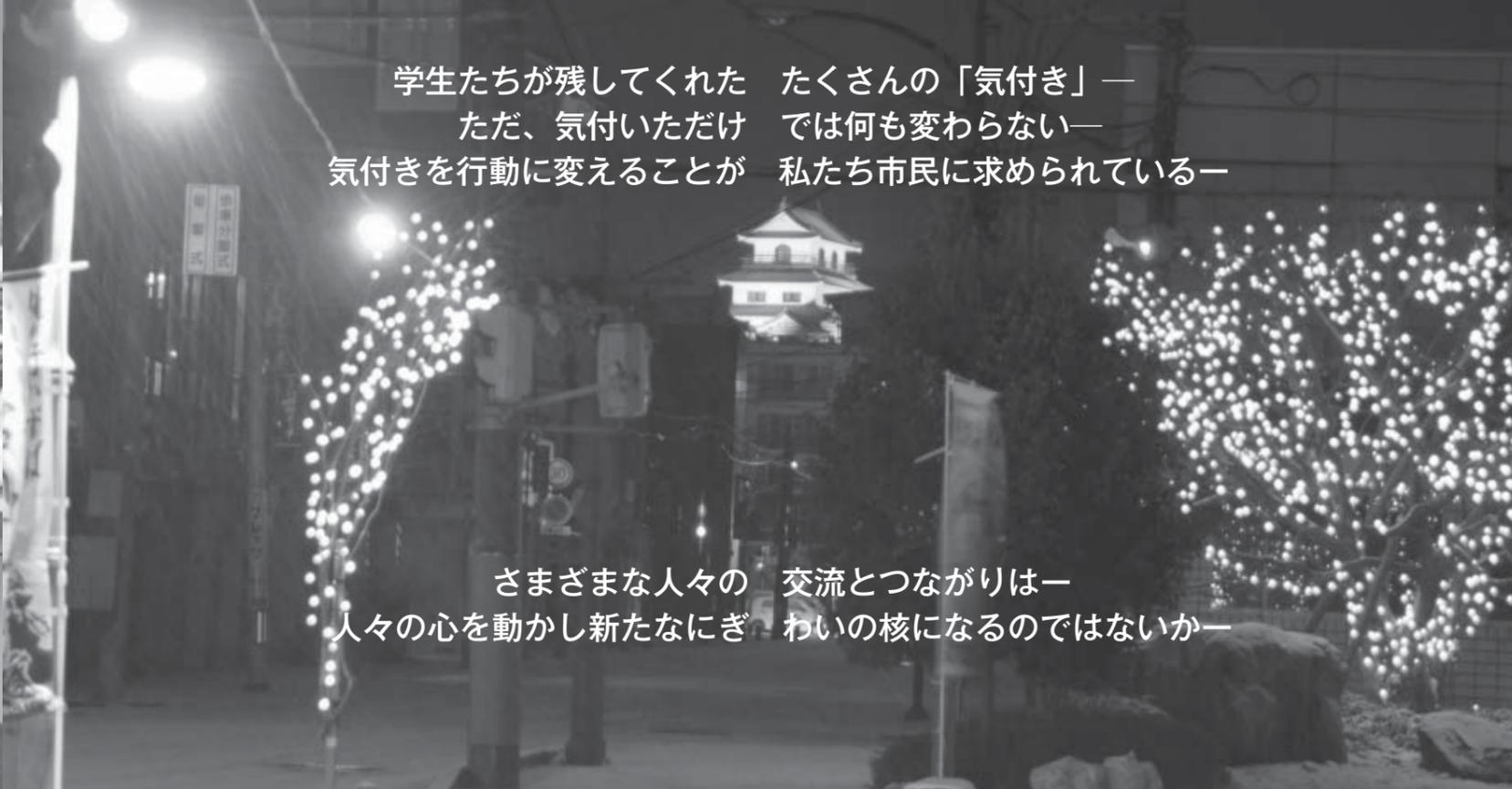




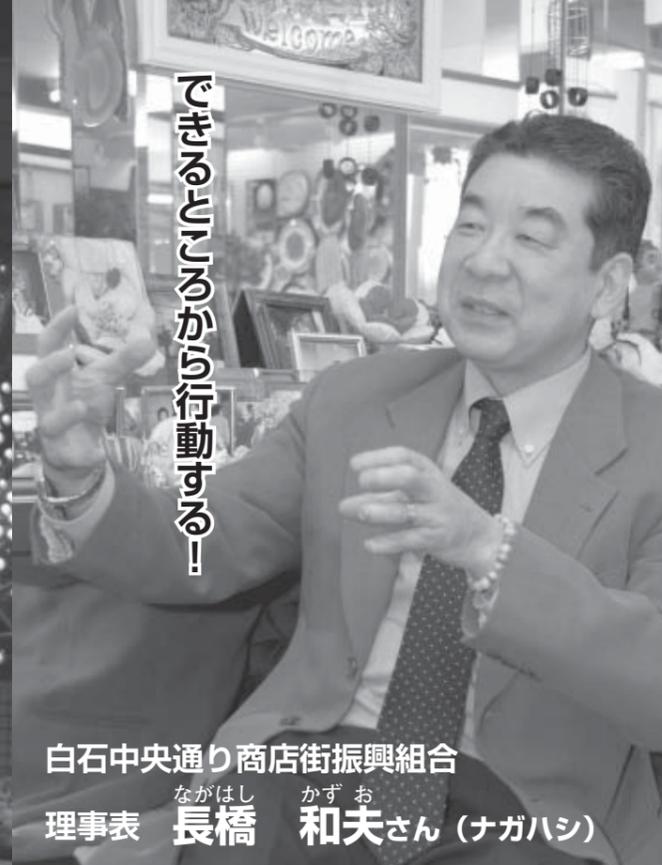
人々のつながりを大切にしよう！

白石中央通り商店街振興組合
専務理事 森 秀敏さん (村田家製菓)



学生たちが残してくれた
ただ、気付いただけ
気づきを行動に変えることが
たくさんの「気づき」—
では何も変わらない—
私たち市民に求められている—

さまざまな人々の
人々の心を動かし新たなにぎ
交流とつながりは—
わいの核になるのではないか—



できることから行動する！

白石中央通り商店街振興組合
理事表 長橋 和夫さん (ナガハシ)

感じる

白石中央通り商店街振興組合は、現在、歴史と自然が息吹く城下町を意識したまちづくりに取り組んでいます。白石城などの観光施設には、片倉小十郎公のブームなどにより、たくさんの方々が訪れています。そこで、これまでの取り組みに加え、片倉家の家紋をプリントしたフラッグを飾り付けたリ、甲冑を置いた店を回るスタンラリーを実施したりと、観光客の呼び込みとともに、市民の皆さんも楽しめる商店街作りを目指しています。

今年も学生の皆さんの展示・発表を見に行きました。そこには、住んでいる人にとっては、日々の生活の中であまり感じることのない、たくさんの方々の白石の魅力が映し出されていました。その中でも、「水」をテーマにした展示を行っていた学生が、沢端川の水をせき止める白石の春と秋の風物詩である「川

今後は、さらに観光客の皆さんにも足を運んでいただけるような取り組みが必要だと思っています。そのためには、商店街の関係者以外の方、例えば、今回イベントを企画された学生の皆さんと商店街のメンバーで、井戸端会議的な場を設けることができれば良かったなあと感じました。学生たちは、まちの人々の交流を生み出しました。ひとつの交流がさらなる交流を生み出し、交流の波となって白石を包み込んでいく動きを感じました。壽丸屋敷やすまいるひろば、商店街、さまざまな場所での人々のつながりが生まれました。

このイベントは、白石に素晴らしい「輝くもの」がまだまだたくさんあることを教えてくれました。そして、それを今後に生かすことが私たちの役割だと思っています。

行動する

冬の恒例行事になっている「イルミネーションロード」。12月4日の18時に、白石駅西口から白石城方面に延びる約3百メートルの街路樹や植え込みに電球約5千個を飾り付けます。今年も、近くの商店街にも参加を募り、まち全体を華やかに

干」のことを「白石ならではの行事で観光資源になるのではないか」と話していました。このような発想は、市民にはないものだと感じました。そのほかにも学生の皆さんの若い発想で、商店街の空き店舗に2日間限りでしたが、映画館や新聞社、また、一夜限りのライブハウスを設けたことは、商店街を元気にしてくれました。

今回のイベントの展示物は、2日間だけではなくもっとたいたいの市民の皆さんに、見て、感じてほしいので、展示物は、ぜひ市の施設に展示してほしいと思います。

深める

この商店街は主に親子で代々経営している方が多く、親の世代から子の世代まで、幅広い世代にご利用いただいています。



▲メディアフェスタを歓迎するポスター

飾りたいと思っています。そして、昨年引き続き、S・A・P(※1)と協働で点灯式を行い、その日1日を冬の大きなイベントとして開催できればと思っています。

それから、すまいる広場でイベントが開催される日や、「しろいしまちかど美術館(※2)が開催されている期間に出店を出したり、ワゴンセールを行ったりできないかと思っています。そのほか、空き店舗を使ったイベントなども開催できればと思っています。

今後は、白石を活性化するためには、ひとつの商店街だけでなく、視点はではなく、ほかの商店街や団体との交流によるつながり。また、観光やイベントで白石を訪れてくださる人など、多様な人々との出会いやふれあいを大切にすること。そして、何かに気付いたら、できるところからでも「行動」し、行動することによって生まれる「交流」を大切にすることが、これからのつながるのではないのでしょうか。

※1 白石アーティストプロジェクトの略。地元を思う若者が音楽やアートでまちを元気に活動。「白い町のメロデー」などを主催 ※2 商店街の店舗などをギャラリーに見立て、小中学生が描いた絵画を展示(白石ユネスコ協会主催)

白石中央通り商店街振興組合

昭和44(1969)年5月、白石駅前の商店が集まり創立総会を開催。現在、44店舗が組合に加入している。理事12人、監査2人で理事会を構成し、毎月1回は集まり、駅前活性化への議論を交わしている。

主な活動は、春まつりや夏まつりへの協賛・参加をはじめ、歴史と自然が息吹く城下町白石にふさわしい景観となるよう、街路灯や石灯籠のモニユメントを設置したり、街路樹を植樹したりするなど、駅前活性化への活動を展開している。春まつり当日は、「エキパル春祭り」と称して、屋台やフリーマーケットを開催し、まつりをさらに盛り上げている。白石の玄関口として、その役割は大きい。



▲「エキパルロード」のバルはフランス語で友達

広げる

尚綱メディアフェスタは、学生たちが若い視点で白石の隠れた魅力を映し出し、新たな「気づき」を提示してくれた。学生たちに限らず、観光やイベントで白石を訪れる人々は、白石を外から支え、白石の良さを人から人に伝達し、広げてくれる大切な「白石の応援団」である。

また、「白石ににぎわいを」と活動している人々はイベントを開催する中で、自らが楽しみながらも、出会うつながりを大切にしている。そんな人々は、限られたエリアの組織や経営だけを考えているのではなく、ほかの人々とさまざまな形で交流することによって生まれるつながりを大切にしている。そして、何かに「気づき」、気付いたら仲間が集まり、自律的に「行動」することで地域の資源を創り出している。

白石にはそんな輝く人々がたくさんいる。輝く行動は、人々の心を動かし、心をつなげる。こうした人々のつながりを大切にしていくことが、新たなにぎわいの核になるのではないだろうか。「輝く人々」や「白石の応援団」が増えていき、つながっていく。そんな白石の姿を想像するだけで胸が躍る。